

代表質問

この定例会では、議案や市政全般について、各会派を代表して6人の議員が質問し、活発な議論を展開しました。その概要は、次のとおりです。
 なお、各会派の紙面の割合は、会派所属議員数に応じて案分しています。

会派名	議員数	質問時間
水曜会	13人	120分
公明党	7人	120分
市民連合	4人	120分
日本共産党	4人	120分
誠友会	4人	120分
新政クラブ	3人	120分

*代表質問の録画放送をインターネットで見ることができます。(詳細は下段)

水曜会



小林 茂裕

河口堰開放による減災効果は

問 河口堰は、建設当初の17万トンの日量水利権に対し、現在の平均日量配水量は約6万トンである。開放について端的に考えれば、日量6万トンの水を箕島浄水場へ持つてくるか、工

業用水の浄水場を中津原1カ所に集約すれば、河口堰を開放できる。河口堰を高潮時やボートなど湖内の利用状況に応じて開閉する全面開放により、災害時の減災効果もあると考えるが。

答 全面開放は堰の貯水位を一時的に下げる効果はあるが、低水位の時間は限られること、災害が想定される豪雨の状況下では、全面開放をしたとしても低水位の状態を長く維持することはできないことを国から聞いており、減災には直結しにくいものと考えられる。

豊かな海の実現に向けて

問 改正された瀬戸内海環境保全特別措置法の認識と、豊かな海の実現に向けた取り組みは。

答 同法は、これまでの水質規制だけでなく、生物多様性の観点

芦田川の水質改善を

問 芦田川は中国地方の一級河川で水質ワースト1が40年以上続く。河口堰の全面開放により水質の改善が図られるのでは。

から藻場、干潟等の保全や再生、地域性や季節性に合った水質管理により豊かな海の実現をめざしたもので、国、県と連携して取り組む必要がある。本市では、貧栄養化対策として市管理の下水処理場等で冬期の栄養塩の管理運転の試行的な実施等に取り組んでいる。

答 芦田川と比較して良好な水質の海水が河川内に流入することで、水質改善に寄与することが期待される。しかし、河口堰は、工業用水の安定供給という機能を有しており、今後の水需要の動向等を踏まえながら在り方を判断する。

2020年度予算への思いは

問 1期目の総仕上げともいえる2020年度予算に対する市長の思いは。

答 これまで「実行、加速、深化」とつないできた取り組みの集大成であると同時に、本市のさらなる飛躍に向けた新たなスタートにしたいという思いを込めて「頻発する自然災害への備え」など3つの備えを充実した。

特に、国や県と連携した抜本的な浸水対策の着実な実施、福山港

の機能強化や福山道路の整備促進など産業基盤の整備のほか、新たに*フレイル予防対策も実施するなど、変化の激しい時代にあっても課題を先送りせず、20年、30年先を見据えた未来志向の都市づくりの第一歩を力強く踏み出したい。



雨水幹線の整備 (抜本的な浸水対策の取り組み)

* 3月定例会の代表質問の録画放送を見る場合

福山市のホームページ → 福山市議会 → 議会中継 → ここからご覧ください。